

区民の皆様

豊島区では、身近なかかりつけ医による「個別接種」を基本に新型コロナウイルスのワクチン接種を進め、7月15日現在、高齢者の80.7%が1回目、65.3%が2回目の接種を終えました。

こうした中、6月21日からは基礎疾患のある方々、6月28日からは一般の方々の接種予約を開始し、まさにアクセルを踏み込んだところで、国から本区に供給されるワクチン量が半減される事態となり、まことに残念ながら、7月9日から、すべての新規予約を一時停止にせざるを得なくなりました。

ワクチン接種を心待ちにされている区民の皆様には、多大なるご迷惑をお掛けすることとなり、大変申し訳なく思っております。

本区のワクチン供給が厳しい状況となっている背景には、国全体の供給が大幅に減ったことに加え、国の配分方式の問題があります。

地域の医療機関には、区民・区民以外を問わず、かかりつけ患者がおられ、特に区境地域では、区民以外の方への接種が少なくありません。

また、乗降客260万人の巨大ターミナル駅「池袋」を持つ本区では、域外からの就業者など、昼間人口が夜間人口の1.5倍となっていることから、他自治体と比べて区民以外の接種割合が高くなっており、先日、医師会のご協力により実施した調査では、6月末までに豊島区内で接種した方の約2割が区外の方でした。

しかしながら、これまでの国によるワクチン配分では、区民以外の方の接種分のワクチンを供給されておらず、豊島区の接種分を賄えていない状況でした。

この間、国や都と協議を重ねてまいりましたが、本区の8月・9月のワクチン供給が月39箱(45,630本分)を基本とすると示されたことを受け、非常に厳しい状況が続きますが、**8月1日から新規予約を再開いたします。**

再開に当たりましては、今後の一般の方々の接種に向け、これまでの「個別接種」中心から「集団接種」中心の体制にシフトしてまいります。

集団接種会場は、8月より、これまでの3会場から8会場に拡充し、土日接種も含め、区民の皆様のニーズにしっかりと対応してまいります。

令和3年7月15日

豊島区長 高野 之夫